

## 平成 29 年度学校評価アンケート集計結果と学校評価について

## 目的)

学校関係者評価を行うにあたり、内部評価（教員・生徒）に対するアンケート調査を行い、分析することで次年度の学校運営の参考にする。

## 調査方法および分析方法)

調査は全校生徒（186 人）を対象に、独自のアンケートを作成し、行った。アンケート結果は、個別に集計し統計処理を行った。

## 結果)

- ・今年度は全ての項目で得点率が 80% を下回った。昨年度よりさらに低い結果となった（表 1、表 2）。学年間に差は見られなかった。
- ・CS 分析の結果より、過去において重要度の高かった人間関係の重要度がやや下がり、施設や学年の重要度が上がった（図 1～6）
- ・満足度の年度間の比較では、現 3 年生 2 年生共に数値が下がった（表 3、表 4）。
- ・自由記述欄、北照高校の良いところを記載内容毎に分類した結果、学校の取り組み、学校生活、授業の順で数が多かった。同じく悪いところは、施設、無し、その他（立地など）の順で数が多かった。

## 自己評価)

※評価については A を最高として、A～E の 5 段階評価で行った。

項目	評価	総 評
学校運営	C	少人数制の HR 指導や教科指導による生徒一人ひとりを大切にしていける方針は、生徒から一定の理解を得ている。一方で、生徒の学校生活の満足度の評価が過去と比較して低かったことの原因として、CS 分析の結果等などから、学校生活に満足している生徒としていない生徒で二分化してしまっていることが伺える。 昨年度までの結果を踏まえて、冬季間の温度管理等の生徒が授業に集中して取り組む事のできるような環境改善は行った。今年度も、引き続き環境改善に取り組むと共に、教職員一人ひとりが学校の運営方針を再確認し、連携しながら教育活動を行っていかなければならない。
生活指導	B	多くの生徒が本校の人間関係に満足していることに加え、教職員の自己評価の結果から、生徒同士、生徒と教員がおおむね良好な人間関係を築くことができていることが伺える。しかし、数は多くないが不公平を感じている、または信頼を得ることができていない生徒がいることや、指導の趣旨をしっかりと周知することに務め、継続的に行っていくことが重要である。

進路指導	A	平成 29 年度の卒業生は、希望者全員が進路決定をして卒業することができた。担任を中心として、進路指導部とも連携しながら、生徒・保護者と十分に相談をした上で進路活動をすすめることができた。主に 3 年生から高い評価を得た。また、課題であった 3 年間を通じた指導についてもワインプロジェクトを中心とした 3 年間を通じた進路指導を開始した。
教科指導	C	教員は、生徒の学力を把握しながら授業を行う努力をした。生徒からも、授業がわかりやすく楽しく取り組む事ができているという評価を得ることができた。一方で、授業規律が守られていなかったり、教員の授業の進め方に不満を持ったりしている生徒もいる。この面についても、満足している生徒としていない生徒の二分化が起きてしまっており、教員は授業が学校の中心であることを再確認し、日々の授業の内容充実に努めていかななくてはならない。
特別活動 ・ 課外活動 指導	A	学校行事には、多くの生徒が意欲的に取り組むことができている。また、部活動についても熱心に取り組んでいる生徒が多く、満足度が高い。その結果として、スポーツコースの部活動を中心に成果を挙げることもできている。 今後もこの傾向を維持できるように、行事内容の一層の充実や、指導方法の向上に継続的に務めていきたい。
総合評価	C	本校の方針である、生徒一人ひとりを大切にする教育について、アンケートの集計結果からは、多くの生徒からの理解を得ることができた反面、一部生徒には理解されていないという結果が得られた。これは、在校生が、本校の学校生活に満足している生徒としていない生徒に二分化してしまっていることを意味している。 昨年度のアンケート結果を踏まえて、努力をしたものの 1 年間で回復するには至らなかった。この結果から、さらなる原因分析を行い、引き続き努力をすることで、より多くの生徒が安心して通学し、学校生活を通じて成長できるような学校づくりに努めていかなければならない。